

## 『乙種1・2・3・5・6類 危険物取扱者試験 令和3年版』 に関するお詫びと訂正のご案内

『乙種1・2・3・5・6類 危険物取扱者試験 令和3年版』の内容について誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正致しますので、お手持ちの本書に加筆訂正をお願い致します。

ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。

よろしくお願い申し上げます。

### 初 版

|                         |   |   |
|-------------------------|---|---|
| P64<br>“2. 過酸化ナトリウム” 表中 | 誤 | 形状 ■ 白色または淡黄色の粉末。   |
|                         | 正 | 形状 ■ 白色または淡黄色の粉末、 <b>または六方晶系の結晶</b>   |
| P105                    | 誤 | 【7】 次の各火災事例におけるアルミニウム粉の火災予防対策について、次のA～Eの組み合わせのうち、正しいもののみをすべて掲げているものはどれか。  |
|                         | 正 | 【7】 次の各火災事例におけるアルミニウム粉の火災予防対策について、次のA～ <b>D</b> の組み合わせのうち、正しいもののみをすべて掲げているものはどれか。   |
| P111                    | 誤 | 【2】 解答「2」<br>2. 棒状の水を大量に放射して、冷却消火するのが最も適切である。なお、硫黄Sは融点が低いため、液状のものは土砂等を用いて流動を防ぐ。<br>4. 高膨脹泡消火剤は、主に石油系の火災に使用され、窒息効果・冷却効果が得られる。                            |
|                         | 正 | 【2】 解答「4」<br>2. <b>硫黄Sは融点が低く、流動しやすい。飛散を防ぐため棒状放水は使用せず、噴霧状にして放水する。</b><br>3. <b>硫黄Sの消火には、炭酸水素塩類を使用する粉末消火剤は適応しない。</b><br>4. <b>硫黄Sの消火には、水、泡、強化液等が適応する。</b> |
| P144 表中<br>“硫黄”<br>性質   | 誤 | ★燃焼で <b>青色の炎</b> をあげ、 <b>有毒な二硫化硫黄</b> を発生   |
|                         | 正 | ★燃焼で <b>青色の炎</b> をあげ、 <b>有毒な二酸化硫黄</b> を発生   |
| P194 表中<br>“黄リン” 性質     | 誤 | ★比重 <b>1以下</b> の不快臭のある白色、及び淡黄色のロウ状液体  |
|                         | 正 | ★比重 <b>1以上</b> の不快臭のある白色、及び淡黄色のロウ状 <b>個体</b>  |

|                        |   |     |  |
|------------------------|---|-----|--|
| P263<br>■ 4 過塩素酸<br>表中 | 誤 | 危険性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>重金属およびその塩類、還元性物質、アルカリ性物質や酸化されやすい有機物と混触すると、分解し酸素ガスを発生し発熱する。</li> </ul>           |
|                        | 正 | 危険性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>重金属およびその塩類、還元性物質、アルカリ性物質や酸化されやすい有機物と混触すると、分解して引火性、爆発性を伴う気体(水素)を発生する。</li> </ul> |

|      |   |   |
|------|---|---|
| P275 | 誤 | <p>【5】 解答「3」</p> <p>2. 加熱により水と酸素に分解する。水素を発生する、は誤り。</p> <p>4. アニリンC<sub>6</sub>H<sub>5</sub>NH<sub>2</sub>は可燃性の液体であるため、接触させない。</p> |
|      | 正 | <p>【5】 解答「3」</p> <p>3. 加熱により水と酸素に分解する。水素を発生する、は誤り。</p> <p>4. アニリンC<sub>6</sub>H<sub>5</sub>NH<sub>2</sub>は可燃性の液体であるため、接触させない。</p> |